

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十六主日礼拝のしおり

2022 年 9 月 25 日

前奏

招きのことば：詩編 146 編 1-6 節

ハレルヤ。わたしの魂よ、主を賛美せよ。

命のある限り、わたしは主を賛美し 長らえる限り わたしの神にほめ歌をうたおう。

君侯に依り頼んではならない。人間には救う力はない。

霊が人間を去れば 人間は自分の属する土に帰り その日、彼の思いも滅びる。

いかに幸いなことか ヤコブの神を助けと頼み 主なるその神を待ち望む人

天地を造り 海とその中にあるすべてのものを造られた神を。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉を取りつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様を信じて歩む人は、世にあっては神様の子どもとして、様々な困難や試練に打ち勝つ力を与えられます。また、臨終のときには、涙の谷から恵みをもって天におられる御父のもとへ取り上げられて、祝福された終わりを与えられます。父なる神様、今週の歩みも、あなたからいただいた命を、あなたに託された使命を果たしつつ、感謝のうちに平安に導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：テモテへの第一手紙 6 章 6-19 節

もっとも、信心は、満ち足りることを知る者には、大きな利得の道です。なぜならば、わたしたちは、何も持たずに世に生まれ、世を去るときは何も持って行くことができないからです。食べる物と着る物があれば、わたしたちはそれで満足すべきです。金持ちになろうとする者は、誘惑、罠、無分別で有害なさまざまな欲望に陥ります。その欲望が、人を滅亡と破滅に陥れます。金銭の欲は、すべての悪の根です。金銭を追いかけるうちに信仰から迷い出て、さまざまなひどい苦しみで突き刺された者もいます。しかし、神の人よ、あなたはこれらのことを避けなさい。正義、信心、信仰、愛、忍耐、柔和を追いか求めなさい。信仰の戦いを立派に戦い抜き、永遠の命を手に入れなさい。命を得るために、あなたは神から召され、多くの証人の前で立派に信仰を表明したのです。万物に命をお与えになる神の御前で、そして、ポンティオ・ピラトの面前で立派な宣言によって証しをなさったキリスト・イエスの御前で、あなたに命じます。わたしたちの主イエス・キリストが再び来られるときまで、おちどなく、非難されないように、この掟を守りなさい。神は、定められた時にキリストを現してください。神は、祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、唯一の不死の存在、近寄り難い光の中に住まわれる方、だれ一人見たことがなく、見ることでない方です。この神に誉れと永遠の支配がありますように、アーメン。この世で富んでいる人々に命じなさい。高慢にならず、不確かな富に望みを置くのではなく、わたしたちにすべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。善を行い、良い行いに富み、物惜しみをせず、喜んで分け与えるように。真の命を得るために、未来に備えて自分のために堅固な基礎を築くようにと。

福音書朗読：ルカによる福音書 16 章 19-31 節

「ある金持ちがいた。いつも紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。この金持ちの門前に、ラザロというできものだらけの貧しい人が横たわり、その食卓から落ち

る物で腹を満たしたいものだと思っていた。犬もやって来ては、そのできものをなめた。やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。そして、金持ちは陰府でさいなまれながら目を上げると、宴席でアブラハムとそのすぐそばにいるラザロとが、はるかかなたに見えた。そこで、大声で言った。『父アブラハムよ、わたしを憐れんでください。ラザロをよこして、指先を水に浸し、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中でもだえ苦しんでいます。』しかし、アブラハムは言った。『子よ、思い出してみるがよい。お前は生きている間に良いものをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、お前はもだえ苦しむのだ。そればかりか、わたしたちとお前たちの間には大きな淵があって、ここからお前たちの方へ渡ろうとしてもできないし、そこからわたしたちの方に越えて来ることもできない。』金持ちは言った。『父よ、ではお願いします。わたしの父親の家にラザロを遣わしてください。わたしには兄弟が五人います。あの者たちまで、こんな苦しい場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』しかし、アブラハムは言った。『お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。』金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ、もし、死んだ者の中からだれかが兄弟のところに行ってやれば、悔い改めるでしょう。』アブラハムは言った。『もし、モーセと預言者に耳を傾けなければ、たとえ死者の中から生き返る者があっても、その言うことを聞き入れはしないだろう。』

讃美歌 332 番

- 1 主は いのちを 与えませり、主は血しおを 流しませり
その死に よりてぞ 我は生きぬ、我 何をなして 主に報いし
- 2 主は 御父の もとを離れ、わびしき世に 住みたまえり
かくもわがために 栄えを捨て、我は主のために、何を捨てし
- 3 主は赦しと いつくしみと 救いをもて くだりませり
豊けき たまもの 身にぞ あまる、ただ身と たまとを 献げまつらん **アーメン**

説教：「よく言い聞かせてください」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

聖書のみ言葉はいつも語られています。しかし耳を傾ける人はとても少ないですね。聖書のみ言葉はいつも語られています。しかし耳を傾けるときはとても少ないですね。聖書を通して私たちをお造りになった神様は、どのように生きれば幸せになるのか、という、神様の秩序を教えてくださいます。単純なことです。神様を全身全霊で愛し、隣人を自分と同じように大切にすることです。私たちの良心もある程度は知っていることです。

神様のみ言葉はいつも語られています。どのように生きるべきかを教えているのです。けれども神様と自分の生活を結び付ける人は少ないですね。正しく、愛をもって生きることのすばらしさに気づいている人でも、自分のわがままな気持ちが邪魔をしてなかなかそのように生きていきません。自分のしたくないことをしてしまいます。思ってしまう。話してしまいます。自分を制御できません。自分に託されている大切な役割や使命を果たそうとしません。人生にうしろめたさをもったままでは滅びに至ることを私たちの魂はうすうす知っています。漠然とした不安や死ぬことへの恐れに悩みます。誰にとっても死ぬのは初めてなので、死んだら何もかもおわりだ、と思い込むことで恐れにとらわれないようにする人もいます。生きることの辛さのあまり、ふと向こう側へとあこがれる諦めもあるでしょう。神様のつくられた秩序にあわない人生の結果は明白です。死で何もおわることはありません。聖書は、人は一度死ぬことと、死んだあとで裁きを受けることが定まっている、と語ります。自分に正しい裁きを招くのです。

神様のみ言葉はいつも語られています。聖書によって鏡に映すようにして私たちは自分のわがままな姿を見ます。私たちは神様から離れて、み言葉を聞かず、自分の判断を神様のようにして、自己中心で罪深い人生を歩んでいます。しかし同時に神様のみ言葉は、まことの神様がその私たちのために救い主イエス・キリストを私たちのためにお送りくださった福音を教えます。イエス様は罪なくしてお生まれになり、誘惑と戦いながら罪のない生涯を全うされました。洗礼はイエス様を着る、ということです。神様はイエス様のきよいご生涯を私の生涯として認めてくださいます。また、ご自分の十字架の死によって私たちにかかわって神様に正しく裁かれました。私たちの罪深い心のためにイエス様は代わりに罪に定められ、裁きをうけてくださいました。さらに古い生まれつきのわがままな心とは別の、イエス様のよみがえりの命にあずかった新しい命が私たちの内に生き始めます。神様が設計してくださったように、喜んで神様を全身全霊で愛し、隣人を自分と同じように大切に歩む、新しいいのちの生きがいと喜びを与えてくださいます。世にあって神様に感謝をしながら、自分に与えられている役割や使命を喜んで果たします。このいのちは体が死んでも永遠にイエス様と共に生きていきます。

聖書のみ言葉はいつも語られています。古いわがままな自分がまだ元気であることがわかります。けれどもイエス様がおられます。私たちは自分のふがいなさに悩むのではなく、いつも悔い改めて、聖書のみ言葉を通してお語りくださるイエス様の方に心に向けて、罪の赦しと新しい命にあずかり続けて生きていきます。神様の具体的なみわざに感謝し、いつも神様を賛美します。そして自分の幸せを求めるよりも、隣人と共に幸せを作り出していく喜びに生かされます。あなたの前に与えられているこの一週間、あなたの思い通りにならないとしても、賛美と愛のわざに溢れて歩みましょう。

イエス様はある実話をお話になりました。お金持ちで贅沢三昧して遊び暮らしている、という、人もうらやむ生涯を送った人がいました。その人の住んでいた豪邸の門前に、これほど不幸せな人がいるのだろうか、と目も覆いたくなるような貧しいラザロという人がいました。はれものがあったのら犬がきて体をなめていくような毎日でした。しかし神様を信じていました。神

様の憐みに信頼していました。苦しくも恥ずかしい彼の生涯は終わりました。彼の死はこの世では誰にも悼まれることはありませんでした。しかしラザロは天使たちに天国に連れて行ってもらいました。信仰の父と言われるアブラハムのすぐそばでゆったり憩うことができました。

同じころこのお金持ちも死にました。彼は盛大に葬られました。しかしイエス様を信じていなかったため、陰府(よみ)でさいなまれるのです。どのようにしてでしょうか。イエス様はどのように教えておられるでしょうか。死んだあと私たちは、「子よ、思い出すがよい。」と神様の声を聴くのです。自分の生きてきたわがままな生涯を思い出して、永遠に後悔し、自分を責め続け、炎の中でもだえ苦しんでいくのです。地獄の苦しみはそのような逃れられない苦しみなのです。このお金持ちはこのように神様の永遠の裁きにもだえ苦しむのですが、それはこの人にだけではなく、すべて神様から心離れて生きてきた人の裁きの姿です。神様の方を向かず、人を傷つけざるを得なかった生涯の全てを思い出させられながら、炎で焼かれる苦しみを受け続けます。

苦しい中からふと見ると、ラザロが遠くでアブラハムのそばにいるのが見えました。それでアブラハムに言いました。「ラザロに命じてわたしのところに来させてください。指を水に浸してくるよう、そうすれば罪の呵責で燃えるように熱くなっている私の舌が、ラザロの濡れた指先で少しでも冷やされます。」この人は死んだ後も、ラザロのことを覚えていました。自分の家の門の前にいた惨めな人だった。そう思って彼を見下げ、自分の自由になると思っていました。しかしこの世で自分の権威のもとにいた者も、親しかった人も、お金持ちの人の苦しみを癒すことはできません。自分の罪の裁きは、死んだあと自分で償わなければなりません。

アブラハムは言いました。あなたは生きていたときに良いものをもらい、ラザロはわるいものをもらっていた。そればかりか、お金持ちの人とアブラハムの間には大きな淵があるので、行き来ができない。だからラザロもあなたのところに来ることはできない。死んだ後には、救いはない、と言われていきます。そこには苦しみを癒すものは何もない、という厳しい現実です。

ようやくこのお金持ちに家族のことを思う気持ちが出てきました。そうだ、私には五人の兄弟がいるではないか、彼らがこんな苦しいところに来なくていいように何とかしたい、そうだらザロだ、ラザロを兄弟たちのところへ送るように、アブラハムに頼み込んでみよう、ラザロが行って兄弟たちに話してもらおう、こんな苦しいところにこないようにいい聞かせてもらおう。

アブラハムの答えは残念ながらお金持ちの意にかなうものではありませんでした。よく考えると当然のことを言っています。聖書のみ言葉はいつも語られています。モーセと預言者のことばがあります。生きている間、あなたもそうであったように、あなたの兄弟たちも今、聖書のみ言葉に聴くことができるのです。お金持ちはアブラハムに食い下がります。ラザロが行って話したら、説得力があるでしょう、みんな聞いてくれるでしょう、そして悔い改めるでしょう。アブラハムの答えはこうでした。聖書のみ言葉はいつも語られています。そのみ言葉に聴かない人は、たとえ死んだラザロが生き返ってお話したとしても、聞き入れることはないでしょう。

聖書のみ言葉はいつも語られています。イエス様はこの実話を通して私たちに、聖書のみ言葉の語られるところにいることの幸いを教えます。悔い改めてイエス様を信じ、罪の赦しと新しいいのちにあずかって生きることは、たとえこの世でお金持ちになってもお金にものを言わせたり、召使に命じて得ることはできません。別次元の幸いなのです。ラザロは信仰の父アブラハムに迎えられています。そのあと十字架で死んでくださってよみがえって父なる全能の神様の右にお座りになっているイエス様が、私たちを迎えてくださいます。私たちが臨終のとき、イエス様はこの方の裁きはわたしがかわりに既に受けています、と弁護をしてくださって、正しい赦しによって永遠のいのちに導いてくださいます。

まだイエス様を知らない方々に、聖書のみ言葉はいつも語られています。お知らせし、お伝えし、お招きしましょう。お金持ちは必死に家族の救いを考えました。いつも語られている聖書のみ言葉のもとに救いがあります。

すでにこの世を去られた方々のことを偲びましょう。聖書のみ言葉はいつも語られています。私たちの知らないところでみ言葉に触れておられたかもしれません。もしかすると臨終にイエス様の御名を呼んだかもしれません。ですから、私たちが臆測で、あの方は信仰をもたずになくなられた、と判断することは神様の領域にはいってしまう冒涇です。愛と憐みに満ちておられ、私たちのようなものも見つけ出して救い出してくださった全能の神様の御手にすべてを委ねましょう。しかしたとえ私たちの愛する方がイエス様を知らず、信じないで今陰府でもだえ苦しんでいたとしても、何としても家族が、友人が、すべての人が、同じ苦しみを味わわないように必死で願っていることをも覚えましょう。聖書のみ言葉はいつも語られています。

私たちは罪深いものです。罪深さを意識しても意識しないでいても、人は一度死ぬことと、死んだ後で正しい裁きがあることには違いはありません。聖書のみ言葉はいつも語られています。聖書のみ言葉に照らされると、自分の力ではどうしようもないほど、強情で、高慢で、汚れはてた自分のわがままさを知ります。自分の罪深さは自分の責任だから自分で何とかしなければならぬ、いやそうできると思っている愚かさを知らされます。自分でどうしようもできない自分の罪のために、イエス様が来てくださいました。あなたの罪を赦し、あたらしい命を初めてくださいます。この一週間も、いつも語られている神様のみ言葉に憩いと安心を得て、新しい力と愛と憤みをいただき、大胆に、地道に、謙遜に、神様を賛美し、人々とともに幸せをつくっていきましょう。人々はあなたを通して神様のみ言葉に出会います。

しかし、アブラハムは言った。「お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。」 ルカによる福音書 16 章 29 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讃美歌 249 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 われ、罪びとの 頭(かしら)なれども、主はわがために 生命(いのち)を捨てて
尽きぬいのちを 与えたまえり
- 2 天(あま)つ みくにの 民とならしめ、幹に連なる 小枝のごとく、
ただ主によりて 活かしたまえり
- 3 妙(たえ)にも尊き み慈しみや 求めず知らず 過ぎしうちに、
主はまず われを 認めたまえり
- 4 思えば かかる 罪びと われを 探し求めて 救いたまいし
主のみ恵みは 限りなきかな アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああみ栄よ アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏